

「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方検討会」

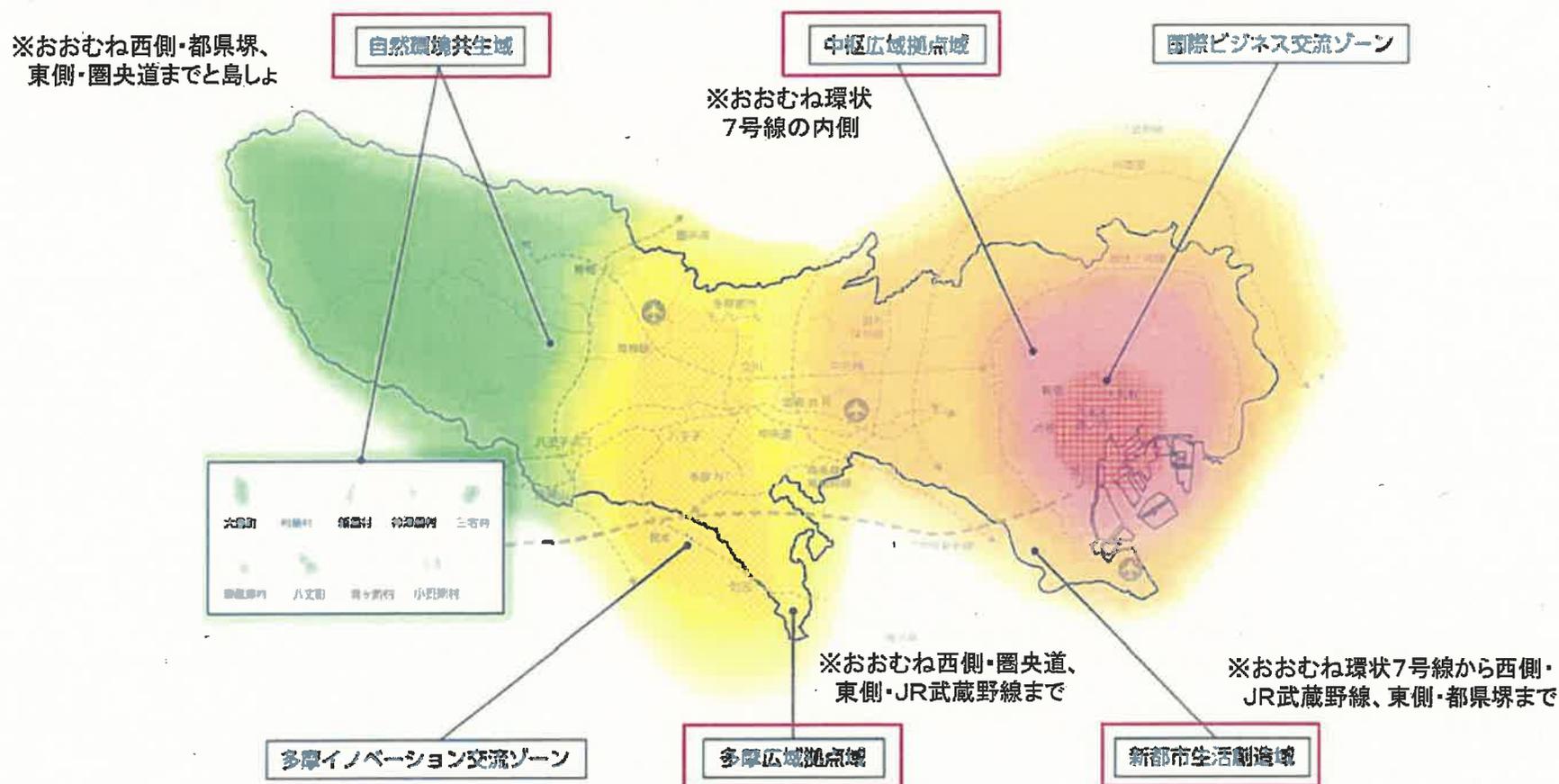
資料抜粋

2. 地域区分

2

- 地域特性等を踏まえた新たな4つの地域区分として、「中枢広域拠点域」「新都市生活創造域」「多摩広域拠点域」「自然環境共生域」を設定
- 4つの地域ごとに、地域特性、課題、活用方針を整理

<4つの地域区分(2つのゾーンを含む)>

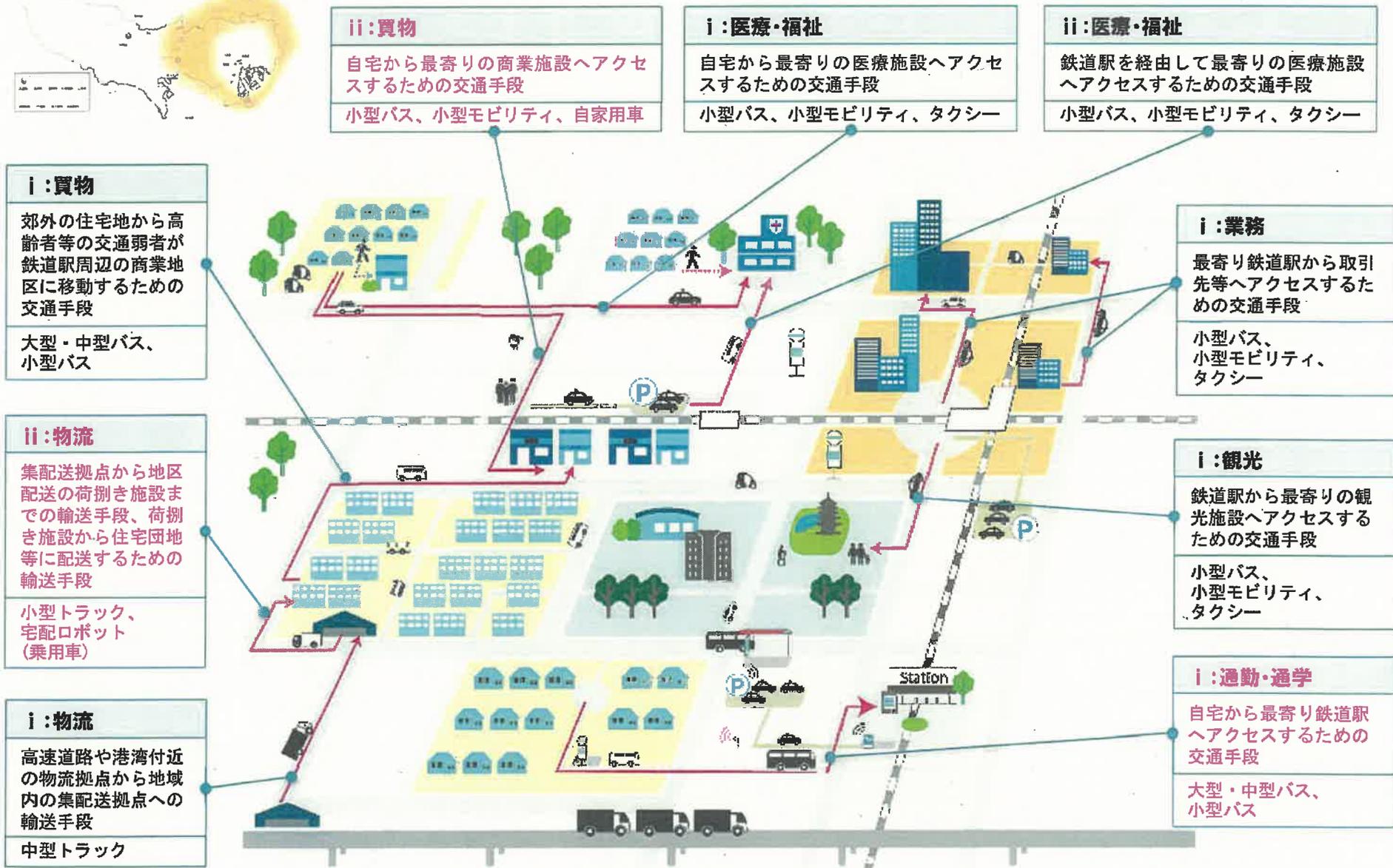
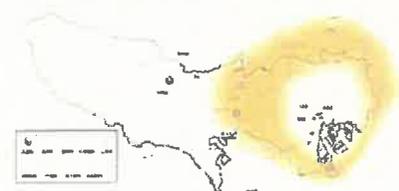


4-2 新都市生活創造域 (1)活用の方向性①

17

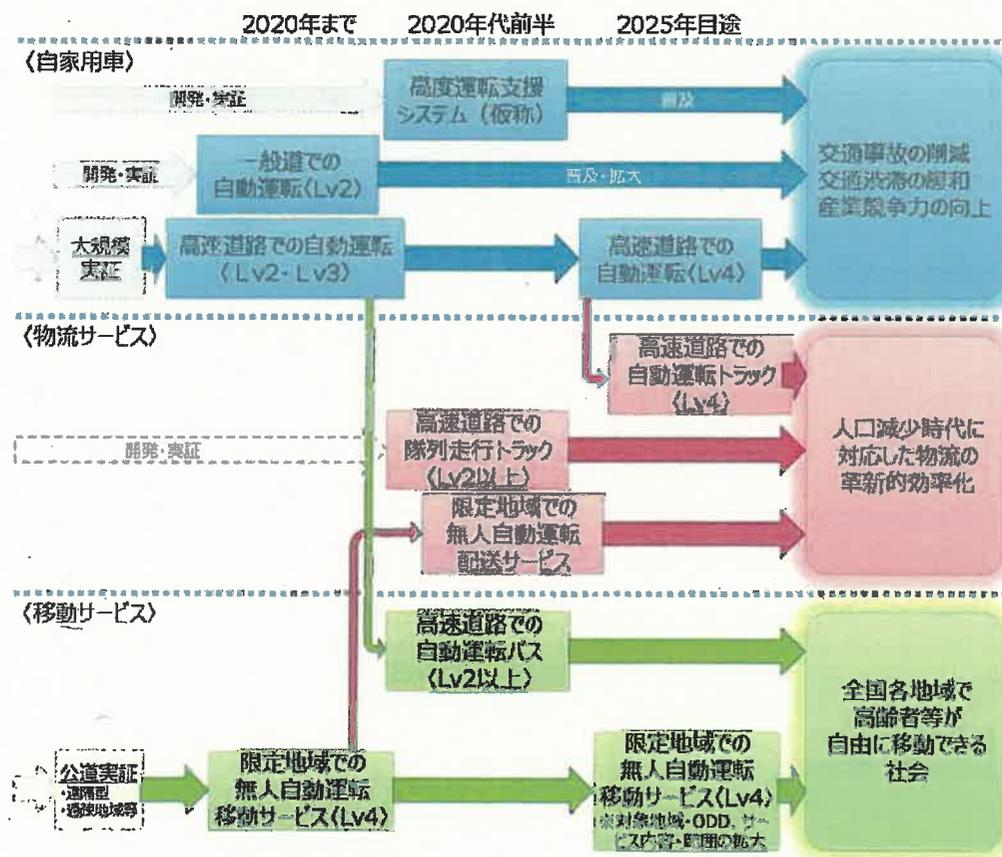
＜新都市生活拠点域における自動運転の活用の方向性＞

目的	地域の交通課題	自動運転の活用の方向性
通勤・通学	○自宅から最寄の鉄道駅へ容易にアクセスできる交通環境の形成が必要	i. <u>自宅から最寄り鉄道駅へアクセスするための交通手段</u>
業務	○地区の状況に応じた鉄道駅から取引先等へのアクセス性の向上が必要 ○主要な幹線道路等における過度な自動車利用を抑制する交通環境の形成が必要	i. 最寄りの鉄道駅から取引先等へアクセスするための交通手段
買物	○高齢者等でも容易に商業施設へアクセスできる交通環境の形成が必要 ○商業施設の駅周辺への立地誘導や自宅から最寄り駅周辺の商業施設へのアクセス性の向上が必要	i. 郊外の住宅地から高齢者等の交通弱者が鉄道駅周辺の商業地区に移動するための交通手段 ii. <u>自宅から最寄りの商業施設へアクセスするための交通手段</u>
医療・福祉	○地区の交通状況を踏まえ、移動負担を軽減し、容易に医療施設へアクセスできる交通環境の形成が必要	i. 自宅から最寄りの医療施設へアクセスするための交通手段 ii. 鉄道駅を経由して最寄りの医療施設へアクセスするための交通手段
観光	○鉄道駅から離れた観光施設へ容易にアクセスできる交通環境の形成が必要	i. 鉄道駅から最寄りの観光施設へアクセスするための交通手段
物流	○集配送機能を担う小規模な物流施設への効率的な輸送が必要 ○利便性の高い配送へのニーズが高い一方、運転手が不足するため、効率的な配送が必要	i. 高速道路や港湾付近の物流拠点から地域内の集配送拠点への輸送手段 ii. <u>集配送拠点から地区配送の荷捌き施設までの輸送手段、荷捌き施設から住宅団地等に配送するための輸送手段</u>



1-4 ロードマップ

- 自家用車は、2020年頃までに一般道でレベル2、高速道路でレベル2・3、2025年目途に高速道路でレベル4を実現
- 物流サービスは、2025年目途に高速道路で自動運転トラックのレベル4を実現
- 移動サービスは、2025年目途に限定地域の無人移動サービスのレベル4を実現



出典)「官民ITS構想・ロードマップ2019」(高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部・官民データ活用推進戦略会議)